

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

男鹿版DMOを核とした地域ブランドづくり推進事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

男鹿市

3 地域再生計画の区域

男鹿市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

当市は、古くから農水産業、観光業が盛んな地域であるが、近年は過疎化に加え高齢化率の上昇（2010年 34.1%、2015年 41.1%）による就労者数や生産量の減少から地域産業の衰退、設備投資額の減、生産性の低下、雇用者の所得減などを誘引し、加えて観光業においても、個人旅行へのシフトへの対応が遅れたほか高速道路網の整備により交通利便性が相対的に低下したことなどから、観光客の減少に歯止めがかからない状況であり、結果として多様化する消費者ニーズに対応する地域力をさらに低迷させる悪循環を引き起こしている。

また立地・資源を活かした商品の開発や売込みは個社単体での取組が多いため、費用・労力面で効率性が悪く、小規模事業者の事業継続はもとより、新規就農（漁）や2次及び3次産業への新規参入も少なく、多様な経済活動の促進を図るための「地域産業間の連携」が希薄な状況である。

4-2 地方創生として目指す将来像

市域全体が半島という立地条件を持つ秋田県男鹿市において、ほぼ全域が国立公園に指定され、また日本ジオパークとして評価される豊かな自然資源に加え、ユネスコ無形文化遺産に登録されようとする固有文化「男鹿のナマハゲ」を代表とする文化・史跡、「ハタハタ」を題材とした食文化などが地域に根付いている。

地域の多様な産業が連携してこれらの資源、文化を活用した商品を造成し、付加価値を高めて売り込む取組を継続的に進めることで、交流人口増による域内の消費額拡大を図り地域が「稼ぐ（稼げる）仕組み」を構築し、加えて地域住民が生きがいや夢を持って暮らし、文化・風土を次世代へ継承することができる地域づくりを目指す。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	H33 年度 増加分 4 年目	H34 年度 増加分 5 年目	KPI 増加 分の累計
男鹿版DMOにおける旅行商品等売上収入額（千円）	2,433.00	500.00	500.00	1,000.00	1,500.00	2,000.00	5,500.00
男鹿版DMOが造成する旅行プラン延参加者数（人）	0.00	300.00	300.00	500.00	700.00	1,000.00	2,800.00
文化・自然を題材とした体験プラン商品数（個）	0.00	3.00	3.00	5.00	7.00	7.00	25.00
男鹿版DMOが造成する旅行プランによる市内延宿泊者数（人）	0.00	100.00	100.00	150.00	200.00	300.00	850.00

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

マーケティング、一元的な情報発信及びプロモーションの実施、地域産業間の連携等により、地域の観光商材の魅力を高め、既存商品・施設だけではなく、自然や文化・生活、産業を題材とした地域の魅力を繋ぐ新たな観光商品、収入機会を創出し、男鹿版DMOが地域商社としての機能を担い「観光を核とした地域づくり」を継続的に取り組み、もって全産業の振興と雇用創出、移住定住を促進する「地域が稼ぐ」仕組みを構築する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

男鹿市

② 事業の名称

男鹿版DMOを核とした地域ブランドづくり推進事業

③ 事業の内容

本事業において、行政及びDMO法人である男鹿市観光協会、加えて市内の多様な事業者が参画する「男鹿市観光推進機構」における観光振興に関する方針や男鹿の将来像の共有により、各産業が連携した地域素材の磨き上げと商品化、継続的なマーケティング調査、一元的な情報発信・プロモーション、受入環境を整備し地域ブランドづくりを推進し、「稼ぐ（稼げる）地域づくり」を目指すものである。

DMOにおいては、ユネスコ無形文化遺産に登録されようとする「男鹿のナマハゲ」や続日本100名城に選定された「脇本城跡」などを代表とする「文化」、豊富な自然・アクティビティ・海山の食材を活用し「自然体験」を題材とした旅行商品の造成と売込を国内外において実施することにより、誘客及び消費拡大を図る。

また、国内需要の受け止め、拡大する外国人旅行需要に対応すべく、HPの多言語化や情報共有・発信のプラットフォームの整備を進めるとともに、外部専門家を招聘して事業者・住民向け研修会を実施し地域機運の醸成を図る。

実施に際しては、民間企業から専門人材の派遣を受け各事業の進捗管理、販路拡大のほかモニターツアーの実施などにより地域産業の連携、資源の価値を高め、加えて各種ノウハウの提供により地域の人材育成も図ることにより、目指す将来像を実現する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

登録観光地域づくり法人（登録DMO）である（一社）男鹿市観光協会が戦略を組み立て、多様な事業者により構成される「男鹿市観光推進機構」が、男鹿市の統一した観光ビジョンを共有し取組を進める。

男鹿市観光協会の新規事業として展開するDMO事業では、既存の観光協会の機能（ネットワーク、旅行業資格等）を活用し、また商品造成・販路拡大における専門人材を配置し域外のノウハウを活用した磨き上げ、プロモーションを行うことで、地域に点在する観光・文化・産業素材を繋ぎ、定番の観光地巡りではない、これまで地元住民にしか知られていなかったものを題材とした新たな商品を開発・販売することにより旅行商品等売上の増を図り、地域ぐるみの売り込みを促す「地域商社」としての役割を担う。

事業収入を増加させることで、観光協会としての手数料収入の増加を図るとともに、域内事業者が「稼ぐ」ことにより、事業者からの負担金収入を得て、

将来的に自立した運営とする。

【官民協働】

ビジョン策定に係り男鹿市観光推進機構による合意形成のもと、関係者による定額の会費負担を図るほか、個別取組ごとの事業費を参画者が分担することにより、行政・民間協働による展開を図るものである。

全体のマネジメントを新たに配置する専門人材（民間事業者から登用）が担うことや、DMOに一定の事業執行権限を与えることで、状況に即応する事業の多様性、柔軟性を持たせることとしている。

市は男鹿版DMO事業自立までの間、人的・財政的補助を行うものとし、男鹿版DMOの専門機能の増強のため施策面での関与と支援を講ずるものとする。

【政策間連携】

男鹿版DMOを中心に全体を総括するワンストップ窓口の強化を図り、域内の交通・エネルギー関連・農水産・観光分野・商工分野など多様な産業に関連した新たな観光商品を創出することで、地域外（主に東北・首都圏域）からの「新たな外貨収入」を獲得する地域づくりを進める。

そのために関係省庁、県及び県内市町村、交通・自然・文化などに関連する各種団体との連携により、豊富な農水産資源を活用した特産品づくりや地元産品の販路拡大、規格外で商品にならない農水産物の活用を促進し新たな付加価値を創造する。また、交通・エネルギー事業者と連携した新たな観光商品の開発、点在する素材の磨き上げを図るほか、移住促進事業による地域間交流の促進、新規事業に取り組む人材や体制への支援、現在新築を進めている「男鹿市複合観光施設」、ユネスコ世界無形文化遺産に登録予定である「男鹿のナマハゲ」等の活用により、素材単体・地域産業の価値を高め、地理的条件不利を克服する来訪・購買意欲の喚起を図る態勢づくりを推進する。

県域の西端である男鹿地域への流入による滞在時間の増は、近隣市町村のみならず、全県における周遊時間・消費の拡大への波及効果も期待できるものである。

【地域間連携】

男鹿市は隣接する潟上市、三種町、大潟村とともに半島振興法に基づく半島振興対策実施地域に指定され、秋田県策定の「男鹿地域半島振興計画」に基づき、半島地域の振興に取り組んでいる。構成市町村とともに、半島地域における観光および各種産業振興施策の協働、現在整備を進めている複合観光施設（道の駅登録予定）等の施設間が連携した特産品の開発・販売や、イベントの開催な

どにより地域及び住民活力の活性化を図ろうとするものである。

また男鹿市は、秋田市・仙北市・大仙市と連携し、2020年開催の東京オリンピック等を視野に入れた“秋田中央横軸連携F I T受入モデル地域整備事業”に取り組んでおり、インバウンド対策及び国内旅行者の誘客対策として地域間移動インフラ整備を推進している。

半島地域の市町村、秋田県の産業振興主要施策、県内外のDMO、秋田中央横軸連携など多種多様な地域、事業者と連携する本事業において、官民一体となり地域ブランドの向上、地域の売り込みを強化することにより、半島地域の振興、秋田県内ひいては東北全体の観光周遊を促進する一助とする。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	H33 年度 増加分 4 年目	H34 年度 増加分 5 年目	KPI 増加 分の累計
男鹿版DMOにおける旅行商品等売上収入額（千円）	2,433.00	500.00	500.00	1,000.00	1,500.00	2,000.00	5,500.00
男鹿版DMOが造成する旅行プラン延参加者数（人）	0.00	300.00	300.00	500.00	700.00	1,000.00	2,800.00
文化・自然を題材とした体験プラン商品数（個）	0.00	3.00	3.00	5.00	7.00	7.00	25.00
男鹿版DMOが造成する旅行プランによる市内延宿泊者数（人）	0.00	100.00	100.00	150.00	200.00	300.00	850.00

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を、登録観光地域づくり法人（登録DMO）である（一社）男鹿市観光協会及び男鹿市観光文化スポーツ部観光課が取りまとめ、男鹿市観光推進機構において検証する。

市議会（産業建設委員会）における報告を行い、委員会からの意見をもって後年度の計画修正、見直しを行う。

【外部組織の参画者】

○男鹿市観光推進機構

<産業> (一社)男鹿市観光協会、男鹿市商工会、J A秋田みなみ、秋田県漁業協同組合

<観光> 男鹿温泉郷協同組合、(株)男鹿水族館、(株)おが地域振興公社、(株)おが

<情報> (株)男鹿なび

<運輸> 東日本旅客鉄道(株)秋田支社、秋田観光バス(株)、(株)船川タクシ

<飲食> 男鹿のやきそばを広める会

<地域> 男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会、男鹿ナマハゲロックフェスティバル実行委員会、NPO法人あきた地域資源ネットワーク

<金融> 秋田銀行男鹿支店、北都銀行男鹿支店

<行政> 男鹿市

【検証結果の公表の方法】

検証後、速やかに市ホームページにおいて公表する

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 170,988千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成35年3月31日（5ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 秋田中央横軸連携F I T受入モデル地域整備事業

事業概要： 秋田市、大仙市、仙北市と本市が連携し、秋田空港、新幹線駅と観光スポット、宿泊施設などを結ぶ訪日外国人向け交通網や多言語化対応などの受入体制を整備し、県内への外国人観光客の増加滞在期間の増加に努め、相互の観光振興と経済発展を目指すもの。

過年度において、4市の観光素材を外国人視点から紹介するパンフレットを制作したほか、二次交通整備のため4市を周遊するツアーバスを試験運行し、観光・体験プログラムを活用した外国人モニター調査を実施した。

平成30年度においては訪日外国人の利便性を高めるため、過年度の取組検証に基づき、二次交通の民間での運行、ウェブ上での情報発信の充実を図ることとしている。

実施主体：秋田県秋田市、大仙市、仙北市、男鹿市

事業期間：平成28年度～平成30年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成35年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

【検証方法】

毎年度、3月末時点のK P Iの達成状況を、登録観光地域づくり法人（登録DMO）である（一社）男鹿市観光協会及び男鹿市観光文化スポーツ部観光課が取りまとめ、男鹿市観光推進機構において検証する。

市議会（産業建設委員会）における報告を行い、委員会からの意見をもって後年度の計画修正、見直しを行う。

【外部組織の参画者】

○男鹿市観光推進機構

<産業>（一社）男鹿市観光協会、男鹿市商工会、J A秋田みなみ、秋田県漁業協同組合

<観光>男鹿温泉郷協同組合、（株）男鹿水族館、（株）おが地域振興公社、（株）おが

<情報>(株)男鹿なび

<運輸>東日本旅客鉄道(株)秋田支社、秋田観光バス(株)、(株)船川タクシー

<飲食>男鹿のやきそばを広める会

<地域>男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会、男鹿ナマハゲロックフェスティバル実行委員会、NPO法人あきた地域資源ネットワーク

<金融>秋田銀行男鹿支店、北都銀行男鹿支店

<行政>男鹿市

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30年度 増加分 1年目	H31年度 増加分 2年目	H32年度 増加分 3年目	H33年度 増加分 4年目	H34年度 増加分 5年目	KPI 増加 分の累計
男鹿版DMOにおける旅行商品等売上収入額(千円)	2,433.00	500.00	500.00	1,000.00	1,500.00	2,000.00	5,500.00
男鹿版DMOが造成する旅行プラン延参加者数(人)	0.00	300.00	300.00	500.00	700.00	1,000.00	2,800.00
文化・自然を題材とした体験プラン商品数(個)	0.00	3.00	3.00	5.00	7.00	7.00	25.00
男鹿版DMOが造成する旅行プランによる市内延宿泊者数(人)	0.00	100.00	100.00	150.00	200.00	300.00	850.00

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

毎年度、検証後、速やかに市ホームページにおいて公表する。